

令和2年度  
**印西市民アカデミーだより**  
 ぶらす  
 第4号

**印西の神社① - 鳥見神社 & 宗像神社 -**

印西市には、鳥見(とみ・とりみ)神社と宗像神社が多数分布しています。印西市の北側の利根川・手賀沼の沿岸には鳥見神社が、南側の印旛沼の沿岸には宗像神社が連なるように分布しています。香取海が関東平野の奥深くまで入り込んでいたころ、それぞれの神を祀る人々が住み着いたものと思われます。



鳥見神社は、大和城上郡の鳥見山(とみのやま)にある鳥見大明神(奈良県桜井市にある等弥(とみ)神社)を勧請したといわれています。主な祭神は、物部氏の祖である天饒速日命(あめのにぎはやひのみこと)である。宗像神社は、筑前国宗像(福岡県宗像市)の宗像大社から宗像三女神(田心姫命 湍津姫命 市杵嶋姫命)を勧請して社殿を創建したといわれています。この辺りは、古くから利根川や印旛沼の反乱が多かったころから、治水・水運の神として信仰されました。さらに、印旛沼の東から南にかけて、麻賀多神社(祭神は和久産巢日神)が広く分布しています。

古代印波国(いんぱのくに)と言われたこの地域には、全国的に類を見ない特異な形態で、鳥見神社 21 社、宗像神社 13 社、麻賀多神社 18 社が配祀されています。いつ、どのような経緯でこれらの神社が創建されたのか、古代に思いをはせてみるのも一興かと思えます。

次号から、印西市の鳥見神社と宗像神社を紹介していきます。